

第4次 深浦町中期社会教育計画

(令和5年度 ~ 令和9年度)

深浦町教育委員会

はじめに

深浦町は平成 17 年 3 月 31 日に隣接する岩崎村と合併し、新しい深浦町として出発しました。新町は面積 488.91 平方キロメートルと全国的に見ても比較的広く、世界自然遺産に登録された「白神山地」を抱えている自然豊かな町です。合併直後の人口は 11,372 人でしたが、令和 4 年末には 7,310 人となり、過疎化と共に、少子高齢化が進行しています。

近年は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、各国ともロックダウンや渡航規制をはじめ、感染防止措置が強力に推し進められ、世界経済にも影響を与えました。日本もその影響は免れない状況にあり、感染の再拡大が繰り返され、様々なイベントの中止や活動の自粛が続いたことは、本町の社会教育活動の停滞をも招きました。

しかし、現在は **With** コロナの政策のもと、感染対策を講じながらイベントなども開催されるようになってきており、テレワークやオンライン会議、学校における児童生徒一人一人へのタブレットの導入等、情報通信技術（ICT）が瞬く間に浸透し、働き方や学び方が急速に変わり始めました。

社会教育においても、これらの技術を町民の皆様が有効に活用しながら学び合える場を提供するとともに、希薄化していく地域の人と人の繋がりを深め、活性化させて行く必要があります。

今回の第 4 次計画策定にあたり、第 3 次計画までにある【ふかうら学の推進】を継承し、これまでの成果と課題を踏まえ、住民・各種団体・行政の協働による社会教育の一層の充実を図ってまいりますので、町民各位のあたたかいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 5 年 3 月

深浦町教育委員会

教育長 草創 文人

深浦町民憲章

平成 18 年 6 月 1 日 制定

私たちは 恵まれた自然にいだかれ 輝かしい歴史と香り高い文化・伝統に誇りをもつ深浦町の町民です
私たちは このふるさとを愛し
「五つのわ」(和・輪・環・話・我)の心を重んじ 希望を未来につなぐ 「あずましい深浦町」をつくるために
この憲章を定めます

- 自然を大切にし さわやかな町をつくります
- 歴史と伝統を守り 文化の町をつくります
- すこやかな心と体で 生きいきとした町をつくります
- 家族をいたわり互いに助けあう なごやかな町をつくります
- 楽しく学びみんなでささえあう 明るい町をつくります

町の花・木・鳥 (平成 17 年 3 月 31 日指定)



福寿草

雪に埋もれた中から芽吹く可憐にして清楚な花には、強い生命力と忍耐力が秘められており、町民が一致協力して町づくりに対処する姿勢を現す。花を愛する町民のシンボルでもあります。



ブナ

ブナは世界自然遺産である白神山地の原生林に生い茂る落葉高木で土を作る、水を貯める、多くの生き物を養う、気候をやわらげるといった働きをもっています。



カモメ

港町として栄えた深浦は、古くからカモメとのかかわりが深く、豊漁に群れ飛ぶその優雅な姿は、和やかな愛情と活力に満ちた未来の象徴として町章にも取り入れられています。

深浦町のプロフィール

【位置・地勢】

本町は、青森県西南部に位置しています。東は鱒ヶ沢町、西は日本海に面し、南は秋田県と隣接しています。地形は海岸から山岳地帯まで変化に富んでおり、ユネスコの世界自然遺産に登録されている白神山地や、津軽国定公園など、美しい自然環境が豊富な地域となっています。

総面積は 488.91k m² となりますが、海岸線まで険しい山岳地帯が迫っている地勢となっており、森林原野等の割合が約 90% を占めています。森林・原野・湖沼面積を除いた可住地面積は総面積の 4.5% ほどとなっています。

気候は、対馬海流の影響で沿岸部の積雪は少ないものの、山間部は豪雪地帯となっています。年間平均気温は 10℃ 程度です。

【沿革】

深浦町は中世以降、蝦夷地往来のための風待ち湊として栄え、物資や文化の交流が盛んに行われるようになりました。経済的な発展も見られ、多くの文化人や著名人を輩出する、文化の薫り高い町が形成されてきました。

明治 22 年（1889）の町村制施行により、大戸瀬村、深浦村、岩崎村の 3 村が成立しましたが、深浦村は、村制のままでは人心が沈滞して気力を失い、世の発展に取り残されてしまっているとの理由から、将来の発展に向かう「百年ノ長計」を掲げ、大正 14 年（1925）に町制を施行した深浦町となりました。その後、昭和 28 年に施行された町村合併促進法により、昭和 30 年には深浦町と大戸瀬村の一町一村が合併し、深浦町となりました。

更に平成 17 年 3 月 31 日に、歴史的にも地理的にも密接な関係にある深浦町と岩崎村が合併し、新たに「深浦町」が誕生しました。

【産 業】

令和 2 年（2020）における当町の就業者は、3,224 人となっています。産業別就業者を見ると、第 3 次産業者の医療・福祉従業者が最も多くなっています。

当町は、農業と漁業を中心とした第 1 次産業を基幹産業として発展してきました。しかし、高度経済成長の中で産業構造も変革しており、第 1 次産業の割合は令和 2 年に 23.1% となっております。産業構造の推移を見ると、第 1 次産業従事者数は高齢化が進むにつれて減少しており、その中でも昨今の農業を取りまく状況は厳しく、農業就業者は年々減少傾向にあります。

【人 口】

当町の人口は、昭和 40 年（1965）以降減少傾向が続いており、令和 2 年（2020）の総人口は 7,903 人となっています。合併時の平成 17 年から令和 2 年までの 15 年間を比較すると、約 30% 減少しており、5 年で約 10% ずつ減少しています。また、現在も過疎地域に指定されています。年齢 3 区分別人口構成比を見ると、年少人口（0～14 歳）、生産年齢人口（15～64 歳）は減少しており、高齢者人口（65 歳以上）は平成 27 年（2015）までは増加していましたが、令和 2 年時点ではついに高齢者人口も減少に転じました。人口全体の割合を見ると依然として少子化が加速している状態です。

また、当町の高齢化率は 48.9% となっております。全国平均が 28.7%（令和 2 年国勢調査時）ですので、かなり高い数値であると言えます。

世帯数も平成 17 年は 4,101 世帯であったものが、令和 2 年には 3,696 世帯と 15 年間で 405 世帯減少しております。一世帯当たりの人員が、2.8 人から 2.1 人と減少していることにより小家族化が進んでいることがわかります。

図表 年齢別（3 階級）人口の推移

（単位：人）

区 分	平成 1 7 年 (2 0 0 5)	平成 2 2 年 (2 0 1 0)	平成 2 7 年 (2 0 1 5)	令和 2 年 (2 0 2 0)
0～14 歳 (構成比)	1, 2 1 7 1 0. 7%	9 3 5 9. 2%	6 9 4 7. 7%	5 0 8 6. 4%
15～64 歳 (構成比)	6, 4 0 6 5 6. 3%	5, 3 9 6 5 3. 0%	4, 4 6 6 4 9. 3%	3, 5 2 8 4 4. 7%
65 歳以上 (構成比)	3, 7 4 9 3 3. 0%	3, 8 5 3 3 7. 8%	3, 9 0 7 4 3. 0%	3, 8 6 7 4 8. 9%
計	1 1, 3 7 2 1 0 0. 0%	1 0, 1 8 4 1 0 0. 0%	9, 0 6 7 1 0 0. 0%	7, 9 0 3 1 0 0. 0%

資料：住民基本台帳（各年 4 月 1 日現在）

【学習環境の整備】

町内の学校施設は現在、小学校 3 校、中学校 2 校で、高等学校（校舎）は令和 4 年度末で青森県立木造高等学校深浦校舎が閉校となることに伴い 0 校となります。次代を担う子どもたちの学習環境の整備とともに、自然環境や伝統文化を活用し、地域に根ざした教育活動を進めています。

文化施設・スポーツ施設については、公民館と体育館が整備され、各地区に集会施設が設置されています。生涯学習時代に対応し、生涯スポーツやレクリエーションを通じた、住民の心身の健康づくりを支える環境整備を行っています。

また、青森県立木造高等学校深浦校舎の閉校に伴い、校舎を社会教育施設として利活用するため、令和 4 年 11 月に「青森県立木造高等学校深浦校舎利活用プラン」を策定しました。今後、深浦町の生涯学習活動の拠点としての整備を行いたいと考えています。

◇ 学校等数

種 別	数
こども園・保育所	7
小 学 校	3
中 学 校	2
高等学校(校舎)	0
大 学 ・ 短 大	0
専 門 学 校	0

◇ 生涯学習関連施設（民間含む）

種 別	数
公民館（分館含む）	3
博物館類似施設	5
体育館・武道館	3
野球場	1
キャンプ場	2
ゴルフ練習場	1
プール（海水プール含む）	2
テニスコート	1
ソフトボール場・サッカー場	1

目 次

計画策定の意義

計画策定の趣旨	1
計画の期間	2
計画の基本的な性格・考え方	2
計画の特徴	2

計画策定の社会的背景

社会教育とは？	3
社会教育の特徴と本質	3
国や地方公共団体の役割	3
「生涯学習」と「社会教育」はどうちがうのか？	4
「生涯学習」「社会教育」が果たしうる役割	4

深浦町社会教育推進体系図（わたしたちが目指すもの）

P 5

計画目標・施策一覧

P 6～7

計 画 【ふかうら学の推進】

「ふかうらを学ぶ」	多様な学習機会の充実（青少年）	8～ 9
〃	〃 （成人）	10～11
〃	〃 （高齢者）	12～13
「ふかうらで育む」	家庭教育の充実	14～15
〃	健康づくり・スポーツの充実	16～17
「ふかうらを楽しむ」	学習環境・条件整備の充実	18～19
「ふかうらを伝える」	文化財保護と文化・芸術活動の充実	20～21

付属資料

資料	深浦町社会教育に関するアンケート調査結果	22～32
----	----------------------	-------

計画策定の意義

計画策定の趣旨

深浦町は、平成 17 年 3 月 31 日に隣接する旧深浦町と旧岩崎村とが合併し、新しい「深浦町」として出発しました。

町では、合併時に「豊かな‘わ’をつなぐ 活気に包まれる[深碧]のまち」を目指した「深浦町第 1 次総合計画（平成 17 年度～平成 26 年度）」を策定しました。

その後、第 1 次と同様の目標を掲げ「深浦町第 2 次総合計画」（平成 27～36 年度）を策定しております。

教育委員会では、社会教育推進のため、合併後の新しいまちづくりに向けて「第 1 次深浦町中期社会教育計画（平成 20 年度～平成 24 年度）」を策定し、引き続き「第 2 次深浦町中期社会教育計画」（平成 25～29 年度）、「第 3 次深浦町中期社会教育計画」（平成 30～34 年度）を策定しました。

策定にあたっては、新しいまちづくりにとって最も大切なこととして、「ふるさと深浦を深く理解し、郷土に誇りを持つ人財の育成。深浦の自然の豊かさや歴史・文化と関わり、それを生活の中に生かし、継承・発展させていくという自覚を持った生き方の追及。」と考え、様々な取組を行ってまいりましたが、まだ十分とは言えない状況です。

その間、さらに過疎化と共に少子高齢化が進み、社会情勢も複雑に推移し、町の基幹産業である農林水産・観光などの産業においても非常に厳しい状況が続いております。

今回の第 4 次計画の策定にあたっては、第 3 次計画までにある【ふかうら学の推進】を継承し、生涯学習の拠点整備やコロナ禍で停滞した社会教育の活性化、コロナ禍で発達した情報技術の活用等、新たな局面に立った深浦町の社会教育の方向性について考え、事業を展開して行きたいと思っております。

社会教育推進にあたり、深浦町についてもっと学びもっと知る。深浦町の良さ、先人の知恵を後世に伝えながら、住み良いまちづくりを行う。みんなで町をさかんにする。みんなで町をふるいたたせる。それぞれの場所で町を元気にできる。そのためにはそれぞれの場所で活躍できるような人材の育成に着目しつつ、それぞれの年代に応じた社会教育活動を推進していくことが大切です。

まちづくりは人づくりとも言われています。地域で人材を発掘・育成し、地域のさまざまな活動に人材（人財）を活かす。地域活性化のために人材（人財）を活かす。そのような系統立てた仕組みづくり、環境の整備が急務と考えます。

以上のことから、深浦町では第 4 次深浦町中期社会教育計画を策定し、住民・各種団体・行政の共働によるまちづくりを目指す社会教育の充実を図って行きます。

計画の期間

令和 5（2023）年度から令和 9（2027）年度までの 5 年間

計画の基本的な性格・考え方

- 1) 本町の社会教育を推進するための基本的・総合的な計画です。
- 2) 「深浦町第 2 次総合計画」との整合性に配慮し、策定するものです。



計画の特徴

項目毎に目標や施策（重点）を定め、取り組むものです。

計画策定の社会的背景

社会教育とは？

「社会教育」は、教育基本法第7条で「家庭教育及び勤労の場所その他社会において行われる教育」あるいは、社会教育法第2条で「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）」とされており、学校以外の社会のいたるところで行われる教育・学習の営みのことです。

社会教育の特徴と本質

法律にはそのように規定されている社会教育ですが、本質的にはどのような特徴を持っているのでしょうか。戦後、文部官僚として公民館の設立や社会教育法制定に大きな役割を果たした故・寺中作雄氏は、社会教育について「国民の自己教育であり、相互教育であり、自由と機動性を本質とする」（『社会教育法解説』、1949年）と述べています。

つまり、社会教育は私たち一人一人が主体となって行う自由な教育・学習の営みであり、学校教育のように教える者と教えられる者という関係で行われるのではなく、自分自身が自分を教育する主体であり、また学び合う者同士がお互いに教育しあうような営みと言えます。さらに、社会教育法第3条では「すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高める」とされています。このことから社会教育というものの本質が、私たち一人ひとりが暮らしの中で感じている生活の課題や地域の課題に根ざした学びであるということが理解できます。

国や地方公共団体の役割

このような特徴・本質を持つ社会教育の営みが発展していくために、国や地方公共団体はどんなことをしなければならないのでしょうか。

先に挙げた教育基本法第7条の第2項では、「図書館、博物館、公民館等の施設の設置、学校の施設の利用その他適当な方法によって教育の目的の実現に努めなければならない」とされ、社会教育法第3条でも「社会教育の奨励に必要な施設の設置及び運営、集会の開催、資料の作製、頒布その他の方法」といったことが国と地方公共団体の任務として掲げられています。

つまり国や地方公共団体の任務とは、これらの方法を通して社会の様々なところで行われる生活課題や地域課題に根ざした国民・住民主体の自己教育・相互教育の営み、すなわち社会教育が活発に行われるように環境を醸成していくことなのです。

「生涯学習」と「社会教育」はどちらがうのか？

「社会教育」というのは、広くとらえると、「学校」以外の教育活動すべてを指すこととなります。先に述べた通り、学校の教育活動を除く、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動であり、**相互学習を通じた「持続的な地域コミュニティ」を支える基盤**となるものです。

また、「生涯学習」は学習者の視点から捉えたもので、社会教育における学習のほか、学校教育や家庭教育における意図的・組織的な学習はもちろん、**個人の学習**や様々な活動から得られる意図的・組織的に行わない学習も含む点で、社会教育より広い活動を対象とする概念です。

「生涯学習」「社会教育」が果たしうる役割

社会やライフスタイルの変化等により、人と人との「つながり」の希薄化、社会の中で困難な立場にある人などに関する課題が顕著化・深刻化しており、社会的包摂と、その実現を支える地域コミュニティが一層重要になっています。

また、超スマート社会（Society5.0）の実現や「誰一人取り残されないデジタル社会」に対応するため、社会人の学び直しをはじめとする生涯学習が重要になっており、中央教育審議会生涯学習分科会における議論において、生涯学習・社会教育が果たしうる役割として、従来の基本的な役割に加え、次の3つの役割を掲げています。

1 ウェルビーイングの実現

ウェルビーイングとは、個人の幸せと、その個人を取り巻く周囲や地域社会が良い状態を持てることを意味します。個人の生涯にわたる自己実現を図る生涯学習と、学びを通じた「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を行う社会教育は、ウェルビーイングの実現に密接不可分です。

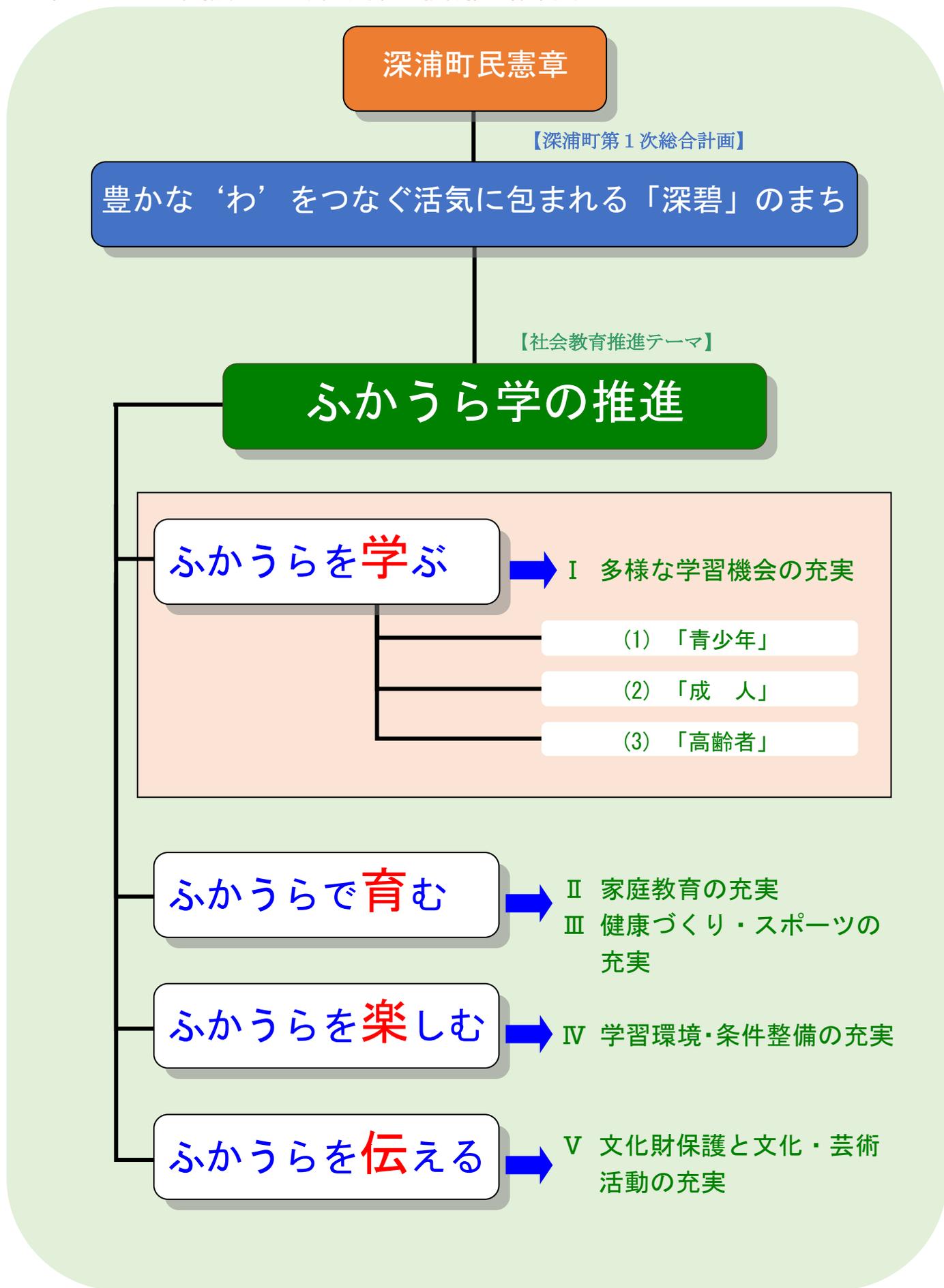
2 地域コミュニティの基盤

生涯学習社会の基盤となるのは、個人の成長や自己実現のみならず、地域社会の発展も含めたウェルビーイングの実現を支える地域コミュニティであり、個人を支える場と場を支える個人の相互作用の循環が重要となります。このような認識の下で、個人の成長や生きがいづくりはもとより、それを支える場や、つながりもターゲットにすることは、社会の持続性の観点からも有効です。

3 社会的包摂の実現とデジタル社会に対応

社会教育は、歴史的に見れば立場の弱い人などに対して学習機会を提供する役割も果たして来ました。共生社会の実現を目指す上で、社会参画に制約のある高齢者、障害者、女性、外国人、貧困の状況にある子供、孤独・孤立の状況にある者などを含め、誰一人として取り残すことのない社会的包摂の実現に向け、必要な生涯学習・社会教育の機会を提供することが重要となります。

また、デジタル社会においてデジタルデバイド（情報格差）の解消のため、地理的な制約、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、誰もがデジタル化の恩恵を享受することにより、豊かさを実感できることが重要であり、国民全体のデジタルリテラシー（最新のテクノロジーを使って業務を行う能力）の向上が求められています。



計画目標・施策一覧

I 多様な学習機会の充実

(1) 青少年

目 標	次代を切り拓くたくましさ豊かな心をもつ青少年を育成するための各種体験活動の充実、環境の整備
施 策	①青少年に参加を促しながら、自然体験活動、社会参加活動の内容の充実を図る。 ②青少年が健やかに地域で育つため、学校・地域・家庭の連携・融合（融和）による取組の充実を図る。

(2) 成 人

目 標	町民の主体的な学習の推進 【町民が主役となった社会教育を目指す】
施 策	①行事（事業・イベント）や学習活動などへの参加意識の高揚を図る（啓発・PRの徹底）。 参加者のニーズに応じた日程の設定。 ②町が行う行事（事業・イベント）については、企画・運営を含め、町民参加型の行事とすることを目指す。 町民が自主的に行う学習活動の促進を図る。 ③社会教育関係団体をはじめ、各種団体・サークル等の交流促進を図る。

(3) 高齢者

目 標	高齢者のニーズに応じた多様な学習機会の充実
施 策	①学習ニーズに応じた行事（事業・イベント）の開催、支援に努める。

ふかうら学とは…

地域をもっと知るために、
地域をもっと好きになるために、
わたしたちが住む「ふかうら」を見つめなおし、
みんなで「ふかうら」を考える取り組みです。

II 家庭教育の充実

目 標	家庭の教育力向上のための学習支援の強化、充実
施 策	①関係機関・団体と密接に連携し一体となって、あらゆる子育て・家庭教育に関する施策の充実を図る。 ②子育てや家庭教育に関する学習を集団で自主的に行えるようサークル等への支援の充実を図る。 ③親子で参加できる取組の充実を図る。

III 健康づくり・スポーツの充実

目 標	住民の自主的なスポーツ活動、健康増進を促進する生涯スポーツの充実
施 策	①各世代に応じた生涯スポーツの推進を図る。 ②個人・団体等のスポーツ活動支援の推進を図る。 ③スポーツ施設の効率的活用の推進を図る。

IV 学習環境・条件整備の充実

目 標	いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境の整備・充実
施 策	①学習ニーズの的確な把握と学習情報の提供に努める。 行事（事業・イベント）のPRの徹底を図る。 ②学びを発表する場の充実を図るとともに、講師（指導者・地域の達人）の育成と参画、活用を促進する。 ③社会教育・社会体育施設等の改修や集約化を図る。

V 文化財保護と文化・芸術活動の充実

目 標	文化財保護・文化芸術活動の推進と啓発活動の充実
施 策	①文化財保護活動と愛護思想の推進を図る。 ②多彩な伝統芸能文化活動の継承と推進を図る。 ③親しみやすく、世代を問わない美術・芸術活動の推進を図る。

計 画

各分野における事業・イベントの実施については、これまで実施した内容を厳しく精査し、事業に取り組みます。

今後5年間、令和5（2023）年度～令和9（2027）年度の計画については、時代や社会情勢の変化、参加者（対象者）のニーズに応じた事業の見直しを行い、廃止すべき事業については廃止し、発展充実させるべき事業については新たな展開に努めます。

I 多様な学習機会の充実 (1) 青少年

1 現状と課題

将来の深浦町を担う人財育成のため、自然体験活動や歴史教室などを行い、子供たちに郷土愛の醸成を図っていますが十分ではありません。子供の頃から故郷の産業や自然、歴史・文化を知り、深浦町の魅力を発信できる人財を育成することが必要です。

少子化が進む中、基本的な生活習慣や善悪の判断や倫理観、社会的なマナーなど、生きるための基本的な能力「生きる力」を養うことが重要となりますが、「生きる力」は家庭だけではなく社会生活から養われる部分が大きいと考えられるので、多様な活動機会を提供する必要があります。

2 住民のニーズ

問	生涯学習について町が力を入れるべきことは何ですか。(青少年)	
回答結果 10～30代	1位 「まちづくりや地域活性化に関する活動」	17.1%
	2位 「地域の行事への参加や伝統文化の継承」	14.9%
	3位 「深浦町の自然体験活動」	14.5%
住民ニーズ	<ul style="list-style-type: none">・自分が住んでいる地区だけでなく、他の地区のことを知り、もっと深浦の自然の魅力を若い人にも知ってもらいたい。・郷土愛をはぐくむため、地元の自然・文化を知ってもらいたい。・様々な視点を得るため、他の世代ともっと交流してもらいたい。・他の地域の人との交流も少なく、子供達が経験する場も少ない。・小学校の時、マリンキッズやアドベンチャーキャンプに参加し、とてもよい体験をした。体験ツアー的なイベントをして町外の同世代とも交流するよい機会を作してほしい。・海・山に囲まれているから、町内をふんだんに活かす活動が出来そう。	

アンケートの結果を見ても深浦町の自然や文化と触れ合うことや、他世代との交流を深めることが多く望まれています。そのような機会を多く提供できれば、深浦町のすばらしさを認識し、地域の活性化にもつながっていくと考えられます。

3 目標

次代を切り拓くたくましさや豊かな心をもつ青少年を育成するための各種体験活動の充実、環境の整備

4 施策

施策① 青少年に参加を促しながら、自然体験活動、社会参加活動の内容の充実を図る。

ふるさとの自然体験活動や社会参加活動（ボランティアなど）を通して自主性や協調性、年下の者への思いやり、年上の者に対する敬いなど、豊かな心を養うため、小学生「生きる力」育成研修会（「アドベンチャーキャンプ」）を始めとする、各種行事（事業・イベント）に参加しやすくする工夫をするとともに、内容の充実を図ります。

施策② 青少年が健やかに地域で育つため、学校・地域・家庭の連携・融合（融和）による取組の充実を図る。

青少年は、学校教育のほか、家庭や地域でも多くの時間を過ごし、社会的な価値観や風潮の影響を受けながら、日常の経験や活動を通して成長していきます。心豊かでたくましい青少年の育成については、町民の協力と理解のもとに、地区町内会など、地域住民や学校からの協力を得ながら活動を進めてまいります。

5 具体的な事業

教育委員会 関係	<ul style="list-style-type: none">・小学生「生きる力」育成研修会（「アドベンチャーキャンプ」）・小学生歴史教室・小中学生絵画コンクール・小中学校俳句大会・英会話巡回指導
町部局・ 関係機関	<ul style="list-style-type: none">・放課後児童健全育成事業（レッツ！ふかうら）・沿道美化清掃・深浦マリンキッズ（漁業後継者対策）活動事業・サケマス幼稚魚放流体験学習・地元の魚を使った料理教室・喫煙予防教室等各種健康教育・町づくりグループミーティング・大学との連携（弘前大学深浦エコサテライトキャンパス）

I 多様な学習機会の充実 (2) 成人

1 現状と課題

町などが企画・運営する事業・学習会に参加することが一般的ですが、住民自らが事業の企画・運営に参画することで、受け身の姿勢から積極的な参加への意欲を高め、地域に波及させていくことが必要です。

地域活動や学習活動への参加者が少ないことから、参加しやすい内容のイベントを企画する必要があり、広く周知されるよう広報活動を充実させることも必要となります。

2 住民のニーズ

問 生涯学習について町が力を入れるべきことは何ですか。(成人)	
回答結果 40～50代	1位 「まちづくりや地域活性化に関する活動」 21.6% 2位 「地域の行事への参加や伝統文化の継承」 13.6% 3位 「防災・減災の啓発」 13.1%
住民ニーズ	<ul style="list-style-type: none">・このままでは深浦町が廃れる一方。何らかの手段を講じてほしい。・各地域の古来からの伝統行事が途絶えないようにしてほしい。・今後の災害予測や災害時の行動などを学習する機会がほしい。・今後ますます重要になるSNSの有効な使い方を学習したい。・地元でも行ったことがない観光名所や知らないことがたくさんあるので、深浦町の事を学ぶ機会があればいい。・大きな病院への通院が困難な地域であるため、まずは病気にならないように町民の意識を高める。健診を受けやすいように仕組みづくりをしてほしい。・公民館でのフリーマーケット

10～30代でも「まちづくりや地域活性化に関する活動」が17.1%と最も多い回答でした。多くの世代で、地域に活気が湧き、世代間の交流も図られる事業が望まれているものと考えられます。

3 目標

町民の主体的な学習の推進【町民が主役となった社会教育を目指す】

4 施策

施策① 行事（事業・イベント）や学習活動などへの参加意識の高揚を図る（啓発・PRの徹底）。参加者のニーズに応じた日程の設定。

成人は、家庭や地域あるいは職場において中心的な役割を担い、社会的に最も貢献できる時期ですが、共働きや勤務の都合などから行事への参加も消極的な傾向にあります。

多くの成人世代が社会教育の重要性を認識し、学びを通して自身の成長につながるよう、各種行事の啓発・PRに努めるとともに、参加しやすい行事日程を設定することや、町民のニーズを把握し魅力ある行事（事業）を提供していきます。

施策② 町が行う行事（事業・イベント）については、企画・運営を含め、町民参加型の行事とすることを旨とする。町民が自主的に行う学習活動の促進を図る。

企画・運営などへの町民参画を一層推進し、町民が一体となって社会教育の充実を図ることが大切です。生涯学習活動における自身の成長は、達成感や幸福感をもたらす人生を豊かにするため、積極的な学習活動の支援に努め、町民の学習活動を奨励していきます。

施策③ 社会教育関係団体をはじめ、各種団体・サークル等の交流促進を図る。

団体の目的や活動内容等は多岐にわたりますが、行事の重なりや行事への協力などは大切なことであることから、団体が集まる実行委員会や運営委員会などを活用し、交流の促進を図り住民活動の活性化へつなげていきます。

5 具体的な事業

教育委員会 関係	<ul style="list-style-type: none"> ・町民講師（人財バンク）活用事業 ・各種教室及び講座・サークル ・生涯学習フォーラム ・二十歳を祝う会 ・文化協会、体育協会、連合婦人会、町連合PTAなど社会教育関係団体への支援 ・各種団体、自主サークルへの育成と支援、各種研修会参加の支援
町部局・ 関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・広報ふかうら発行 ・ふかうら芸能祭 ・芸能発表会 ・大学との連携（弘前大学深浦エコサテライトキャンパス）

I 多様な学習機会の充実 (3) 高齢者

1 現状と課題

当町の高齢化は急速に進んでおり、高齢者については、町福祉部局・町社会福祉協議会・町老人クラブなどを通じて、生涯学習、軽スポーツ、奉仕活動などを行っています。が十分ではなく、学習や健康づくりなどについて関係機関との連携や相互協力を視野に入れた幅広い活動を行うことが必要です。

高齢者の生きがいがづくりの社会参加の一環として、人生経験や学習により体得した能力を活かせる機会、発表する機会を増やし、次世代に提供・継承するため、人財発掘・人財活用事業を展開していく必要があります。

2 住民のニーズ

問	生涯学習について町が力を入れるべきことは何ですか。(高齢者)	
回答結果 60～70代	1位 「地域の行事への参加や伝統文化の継承」	11.5%
	2位 「防災・減災を啓発する活動」	10.6%
	3位 「高齢者を対象とした生涯学習プログラム」	10.6%
住民ニーズ	<ul style="list-style-type: none">・地区、小さい村等での大きな祭り事をしてほしい。・イベントのために深浦まで行くのは遠くて大変です。・町の公民館等遠いので村の集会場等でも事業をやってほしい。・自分にあったものがあれば参加したい。・自然体験時にゴミ拾いの活動も一緒に行えたら参加したい。・空き家の草刈りボランティアチームをつくったらどうか。	

60～70代では「地域行事への参加」との回答が最も多く出されました。人口減少や核家族化、夫婦共働き世帯の増加による、地域行事への参加が困難となる世帯が増えたためと考えられます。

次いで「防災・減災の啓発」の回答が多く、近年の異常気象や地震による自然災害が多発していることが影響していると思われます。

また、「高齢者対象のプログラム」も多く回答があり、高齢者自身の学びの場が求められていることが分かります。

3 目標

高齢者のニーズに応じた多様な学習機会の充実

4 施策

施策① 学習ニーズに応じた行事（事業・イベント）の開催、支援に努める。

高齢者の生きがいを高め、自ら進んで学習活動や社会活動を継続するため、生活課題や学習ニーズに対応した学習機会の充実が求められています。

また、人生経験やこれまで蓄積された知識を活用するため、高齢者自らが講師となって、広く町民の学習機会の際に活躍できるよう町民講師（人財バンク）事業などの充実を図ります。

5 具体的な事業

教育委員会 関係	<ul style="list-style-type: none">・町民講師（人財バンク）活用事業・軽スポーツフェスティバル・スポーツ講座（ウォーキング等）・老人クラブへの学習支援
町部局・ 関係機関	<ul style="list-style-type: none">・高齢者の生きがい活動推進事業・脳の健康教室・社会福祉大会・生きいき健康福祉祭・ほのぼの交流事業・老人演芸大会、ゲートボール大会

Ⅱ 家庭教育の充実

1 現状と課題

少子化が進み、子供と地域の関りも薄くなっています。核家族化がすすむ中で家庭のみでの家庭教育には限界があり、地域や人とのつながりがとても重要です。

幼児期における集団遊びや自然と触れ合う機会も減少しており、家庭や地域社会が一体となって、幼児が健やかに発育できるような環境の整備が必要です。

2 住民のニーズ

住民ニーズ	<ul style="list-style-type: none">・子供と一緒に水彩画や油絵などを習いたい。・親子で体験、学習できる事を増やしてほしい。・親子、世代間など、たくさん交流できる場がほしい。・高齢者と子供のふれあいを増やしてほしい。・どこに、だれが住んでいるかわからなくなっている世代になっているため、もっと、周りに関心を持てる子供達に育ててほしい。・美術館では親子で参加できるものや展示があればいい。
-------	---

アンケートでの自由意見を見ると、親子で参加できる事業や世代間の交流を望む声が複数の設問でありました。親子で参加しやすい事業内容や日程を計画していく必要があります。

また、町内外の図書館（室）を「利用していない」と回答した割合が非常に高く、あらためて読書意欲の向上を図るとともに、特に親子が利用したくなる読書環境を整備する必要があります。

3 目標

家庭の教育力向上のための学習支援の強化、充実

4 施策

施策① 関係機関・団体と密接に連携し一体となって、あらゆる子育て・家庭教育に関する施策の充実を図る。

家庭教育はそれぞれの家庭において個別に行われるものですが、それを支える地域の支援については、地域社会との関わりの希薄化により、自然発生的に行われる状況にはありません。それに加え、家庭の教育力の低下などから、社会全体で子供を育む条件整備が求められています。

施策② 子育てや家庭教育に関する学習を集団で自主的に行えるようサークル等への支援の充実を図る。

関係機関・団体と一体となって、子育てや家庭教育に関する施策の充実に取り組む必要があります。特に、社会教育の分野では親同士の交流や子育てに関する学習が自主的・集団的に行えるようサークルへの支援強化や、子育て・家庭教育講演の開催など、親同士や地域の人と人のつながりができる事業の工夫が必要です。

施策③ 親子で参加できる取組の充実を図る。

母親のみならず、父親が子供とともに参加できる取組の充実を図ります。

5 具体的な事業

教育委員会 関係	<ul style="list-style-type: none">・ブックスタート事業・親子で読み聞かせ推進事業・スポーツ講座（ウォーキング等）・小学生「生きる力」育成研修会（アドベンチャーキャンプ）
町部局・ 関係機関	<ul style="list-style-type: none">・放課後児童健全育成事業（レッツ！ふかうら）・子育てに関する支援の整備、啓発・食育推進事業・連合PTA事業

Ⅲ 健康づくり・スポーツの充実

1 現状と課題

町の社会体育活動は、体育館や公民館などにおいて実施されていますが、体育館などの施設においても老朽化がすすみ、整備や改修などが課題となっています。

団体スポーツ等、種目によっては少子化によりチーム編成が困難となっており、公立中学校の運動部活動を段階的に地域移行することがスポーツ庁から提言されました。学校や市町の壁を超えたスポーツ活動を模索するとともに、地域の受け皿の整備が必要となります。

2 住民のニーズ

問	今後したいと思っている「スポーツ」は何ですか。		
回答結果	1位 「ジョギング・ウォーキング」	23.2%	
	2位 「アウトドアスポーツ」	12.5%	
	3位 「室内フィットネス・ダンス」	11.4%	
問	健康づくり・スポーツを充実させるために力を入れるべきことは何ですか。		
回答結果	1位 「公民館等での教室・講座」	24.5%	
	2位 「運動教室やスポーツ大会」	18.5%	
	3位 「総合型スポーツクラブへの支援」	18.1%	
住民ニーズ	・岩崎にスポーツをさせるために施設が必要。 ・スポーツをしようと思うきっかけが無い。 ・深浦町の地理的な面を考えると各地区の施設が不十分。 ・気軽に通える場がないので、友達・家族・お年寄りなどを誘っていける場がほしい。		

何らかのスポーツ活動を「したい」と答えた人が54.2%と、半数を超えており、スポーツへの関心は高いと考えられます。

具体的なやりたいスポーツの内訳を見ると、「ジョギング・ウォーキング」が23.2%で最も多く、次いで「山や川で行うアウトドアスポーツ」が12.5%、「室内フィットネス・ダンス等」が11.4%と多く、気軽に出来るスポーツに関心があるようです。

3 目標

住民の自主的なスポーツ活動、健康増進を促進する生涯スポーツの充実

4 施策

施策① 各世代に応じた生涯スポーツの推進を図る。

誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、軽スポーツフェスティバルやウォーキング等の事業を継続して実施するなど、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

施策② 個人・団体等のスポーツ活動支援の推進を図る。

町体育協会や総合型スポーツクラブへの支援などを通して、町や地域の活性化につながるスポーツ振興の促進に努めます。

施策③ スポーツ施設の効率的活用の推進を図る。

活力に満ちた生活を送ることができるよう、健康づくり、体力づくりのため、施設の効果的活用、指導者の発掘・育成や資質向上を含めた養成を行っていきます。

5 具体的な事業

教育委員会 関係	<ul style="list-style-type: none">・軽スポーツフェスティバル・スポーツ講座（ウォーキング等）・町体育協会の育成及び支援・総合型スポーツクラブへの支援・各スポーツ施設管理・スポーツ少年団の育成及び支援・青森県民駅伝競走大会参加事業・青森県小・中学校相撲夕陽海岸深浦大会への支援
町部局・ 関係機関	<ul style="list-style-type: none">・県民体育大会参加

IV 学習環境・条件整備の充実

1 現状と課題

情報化の進展や教育水準の向上、少子高齢化に伴う年齢構造の変化、地域の拠点である公民館利用者の高齢化が進んでおり、若い世代の利用が減少している状況にあります。多くの住民が新たな学びや人との出会いを求めて、手軽に参加・交流できる機会や場の創出が求められています。

2 住民のニーズ

問	今後「生涯学習」を盛んにするために行うべきことは何ですか。		
回答結果	1位 「気軽に参加できる講座や教室の開催」	18.4%	
	2位 「町民のニーズなどを把握し、反映」	14.4%	
	3位 「地域が活気づくようなイベント開催」	12.7%	

「すべての人が気軽に参加できるようなさまざまな講座や教室を増やす」が最も多くの回答があり、町民のニーズに合った魅力ある事業が求められています。

他には「今は YouTube などですり足るため、スクールが出来ても行かないと思う。」など、現代の生活スタイルを感じさせる意見もありました。情報通信技術の普及に合わせた事業と、それらに捉われない事業を並行してすすめることが必要と考えられます。

問	深浦町の公民館を利用したことがありますか。		
	深浦町公民館	岩崎分館	大戸瀬分館
	「利用したことがない」64.7%	「利用したことがない」83.7%	「利用したことがない」85.9%
	「利用したことがある」31.7%	「利用したことがある」14.1%	「利用したことがある」9.8%
	「よく利用している」2.0%	「よく利用している」0.3%	「よく利用している」0.7%

深浦町公民館では「よく利用している」「利用したことがある」の割合が3割を超えていますが、岩崎・大戸瀬分館の利用者は約1割～2割弱となっています。

新型コロナウイルス感染症の影響も要因の一つと考えられますが、地域の拠点である公民館の利用促進が必要と考えられます。

3 目標

いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境の整備・充実

4 施策

施策① 学習ニーズの的確な把握と学習情報の提供に努める。

行事（事業・イベント）のPRの徹底を図る。

個人や団体等で学習する活動は、生涯学習における柱であり、財政面も勘案しながらも、活性化に努めなければなりません。いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境をつくるため、学習者のニーズを十分に把握するとともに、各種教室の開催や自主サークル活動への支援などの充実を図ります。

また、主催行事を町民に広範囲に行き届くよう、町の広報紙やチラシ、ポスターだけでなく、町ホームページへの掲載や防災無線の活用、口コミ等を利用したPR活動を行い、社会教育活動の推進を図ります。

施策② 学びを発表する場の充実を図るとともに、講師（指導者・地域の達人）の育成と参画、活用を促進する。

町民が様々な学習活動で身に付けた知識・技術や自ら有している経験を生かし、学校教育の現場など身近なところで社会参加できる場や機会の拡充を図る必要があり、地域へ還元していく発表の場や知識・技術を伝える場の充実を図るため、町民講師（人財バンク）活用事業や文化祭などの取組の充実を図ります。

施策③ 社会教育・社会体育施設等の改修や集約化を図る。

深浦町公民館をはじめとする社会教育施設が老朽化し、施設改修等の整備が課題でしたが、令和4年度で閉校する、青森県立木造高等学校深浦校舎を社会教育施設として利活用することが予定されており、今後、生涯学習の拠点としての整備をすすめることとなります。

5 具体的な事業

教育委員会 関係	<ul style="list-style-type: none">・町民講師（人財バンク）活用事業・各種教室開催及びサークル支援・図書貸借事業・近隣市町村の学習情報提供・公共の施設の貸出し・社会教育各種団体及びサークル活動での活用・広域施設情報の充実・文化祭・図書館情報ネットワークシステム事業・近隣市町村への講師紹介
町部局・ 関係機関	<ul style="list-style-type: none">・ホームページ等Webでの情報提供・広報ふかうらの発行周知・放課後児童健全育成事業（レッツ！ふかうら）・ふかうら芸能祭

V 文化財保護と文化・芸術活動の充実

1 現状と課題

古くからの地域の伝統的な芸能や文化が数多くありますが、人口減少や後継者不足などの問題を抱えています。保存会の組織強化や記録事業などにより保存、整備、歴史認識の継承を行っていく必要があります。

また、史跡、その他様々な文化財も数多く残されていますが、保存活動の担い手が少なくなってきました。町の歴史や文化を町民に知ってもらうため、文化財の紹介や歴史的資料の展示などの積極的な活用が望まれます。

美術館では主に県内の美術作家の展示を定期的に行っており、県内の美術作家から高い評価を得ています。しかし、町民の美術館に対する認知度は低いため、町民が気軽に足を運べるような展示や事業内容が求められています。

2 住民のニーズ

問 町の文化・芸術活動を充実させるために必要なことは何ですか。	問 町の文化財や伝統芸能の継承・保全について必要なことは何ですか。
1位 「小中学校での総合的な学習等の支援」 17.9%	1位 「後継者不足の解消や保存会の強化」 30.4%
2位 「公民館等での教室・講座」 17.4%	2位 「文化財、伝統芸能の観光資源化」 16.6%
3位 「文化芸能団体への支援活動」 13.1%	3位 「保存会等への支援活動」 15.4%

文化財や伝統芸能については「人口減少による後継者不足の解消や保存会活動の強化」が全ての世代で多くの回答があり、共通の課題であると考えられます。

問 深浦町歴史民俗資料館・美術館を利用したことがありますか。	問 美術館に今後どのような展示や事業を行ってほしいですか。
1位 「利用したことがない」 66.3%	1位 「町外の美術館などとの連携」 30.4%
2位 「利用したことがある」 31.4%	2位 「現在の常設・企画展」 16.6%
3位 「その他」 2.3%	3位 「現代美術」「美術に関する教室や講座」 15.4%

歴史民俗資料館・美術館の利用の有無について、「利用したことがない」が「利用したことがある」の倍以上となり、利用促進が求められます。

美術館に望む事業内容として、「町外の美術館などと連携した事業」の他、「現代美術」、「美術に関する教室や講座の開催」を望む声が多くあり、美術館自体を知らないとの意見もあり、事業内容の充実や周知方法によって来館者が増える可能性も垣間見えます。

3 目標

文化財保護・文化芸術活動の推進と啓発活動の充実

4 施策

施策① 文化財保護活動と愛護思想の推進を図る。

郷土に対する愛着と誇りを培い、潤いのある町民生活を実現するため、将来の文化の向上発展の基礎をなす貴重な文化財を伝え、保存活用に努めます。

施策② 多彩な伝統芸能文化活動の継承と推進を図る。

地域の文化や伝統の継承・保全是、他の地域との多くの交流が育まれる観光資源としても重要なため、無形文化財団体（文化協会等）への支援に努めます。

施策③ 親しみやすく、世代を問わない美術・芸術活動の推進を図る。

美術・芸術にふれる機会は、自身の心に栄養を与え日常にゆとりをもたらします。また、新たな仲間づくりや交流を生む機会となり、人生が豊かなものとなります。このような機会を多く提供するため、町民に親しみやすい、子供や友達同士、親子なども気軽に足を運べるよう、小中学校の絵画コンクールや文化祭などの作品展示事業や体験教室を推進します。

5 具体的な事業

教育委員会 関係	<ul style="list-style-type: none">・指定文化財保護管理・無形文化財団体（文化協会等）への支援・巨樹古木保存・町文化賞スポーツ賞表彰・文化祭・文化協会の育成及び支援・県下俳句大会・資料館美術館の特別展、企画展・歴史を学びあう会・小学生歴史教室・小中学校絵画コンクール・公共の施設の貸出し・ふかうら文学館常設展・風待ち館常設展
町部局・ 関係機関	<ul style="list-style-type: none">・広報ふかうらの発行周知・ふかうら芸能祭

資 料

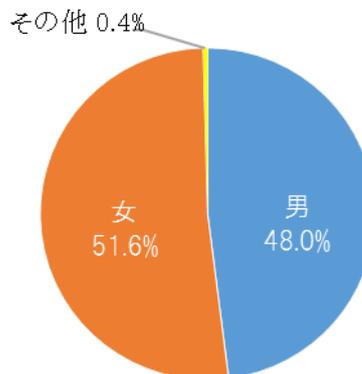
深浦町社会教育に関するアンケート調査結果

【社会教育に関するアンケート調査結果】

アンケート配布数 800 人
 アンケート回答数 306 人
 アンケート回答率 38.3%

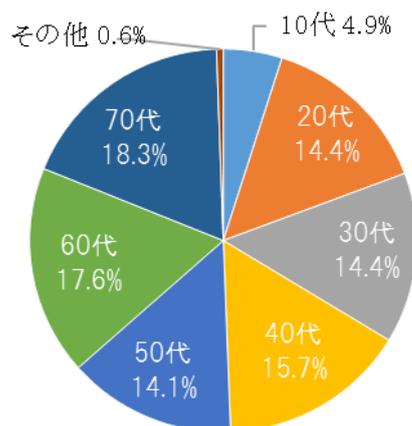
問1 あなたの性別についてお答えください。

No.	回答内容	割合
1	男	48.0%
2	女	51.6%
3	その他	0.4%
4	計	100.0%



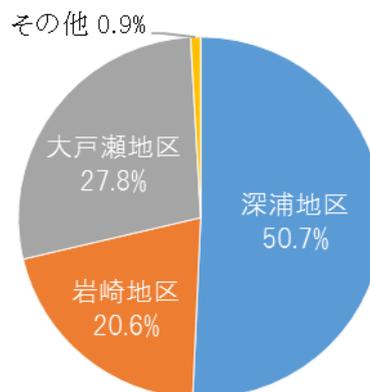
問2 あなたの年齢についてお答えください。

No.	回答内容	割合
1	10代	4.9%
2	20代	14.4%
3	30代	14.4%
4	40代	15.7%
5	50代	14.1%
6	60代	17.6%
7	70代	18.3%
8	その他	0.6%
9	計	100.0%



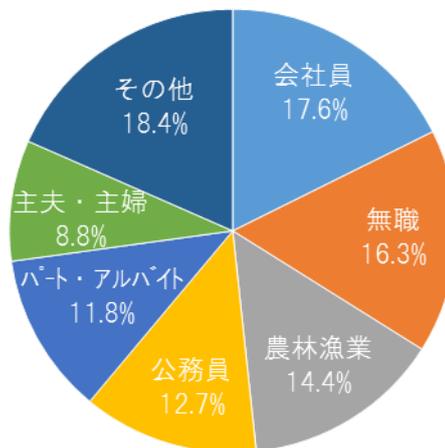
問3 あなたのお住まいの地区についてお答えください。

No.	回答内容	割合
1	深浦地区	50.7%
2	岩崎地区	20.6%
3	大戸瀬地区	27.8%
4	その他	0.9%
5	計	100.0%



問4 あなたの職業をお知らせください。

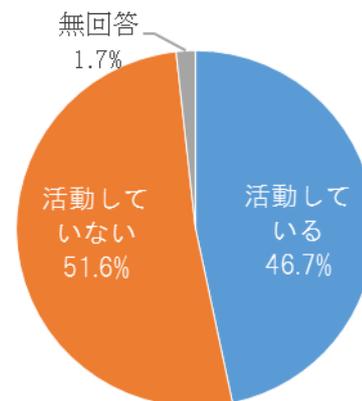
No.	回答内容	割合
1	会社員	17.6%
2	無職	16.3%
3	農林漁業	14.4%
4	公務員	12.7%
5	パート・アルバイト	11.8%
6	主夫・主婦	8.8%
7	その他	18.4%
8	計	100.0%



問5-1 生涯学習についてお聞きします。あなたは、現在どのようなことをしていますか。

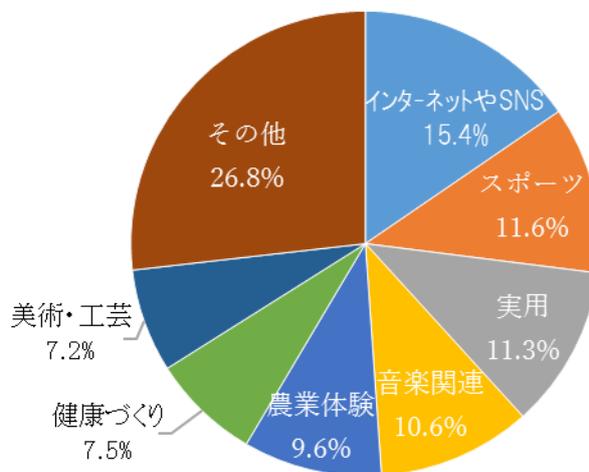
【活動の有無】

No.	回答内容	割合
1	活動している	46.7%
2	活動していない	51.6%
3	無回答	1.7%
4	計	100.0%



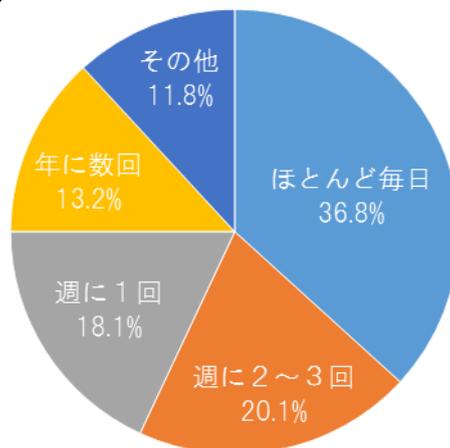
【活動内容の内訳】

No.	回答内容	割合
1	インターネットやSNS	15.4%
2	スポーツ	11.6%
3	実用	11.3%
4	音楽関連	10.6%
5	農業体験	9.6%
6	健康づくり	7.5%
7	美術・工芸	7.2%
8	その他	26.8%
9	計	100.0%



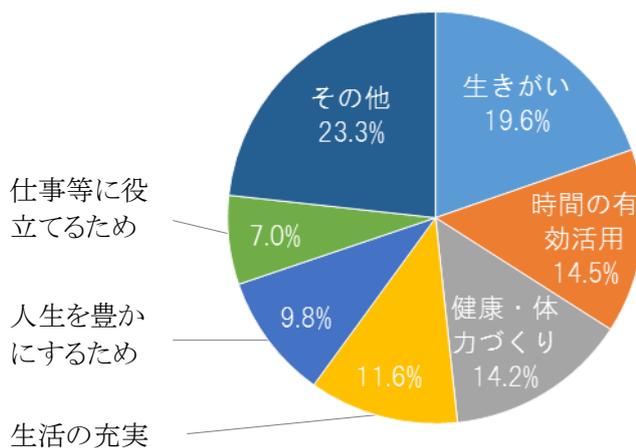
問5-2 現在行っている活動の頻度はどれくらいですか

No.	回答内容	割合
1	ほとんど毎日	36.8%
2	週に2～3回	20.1%
3	週に1回	18.1%
4	年に数回	13.2%
5	その他	11.8%
6	計	100.0%



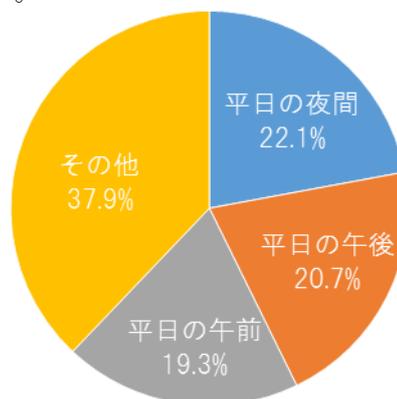
問5-3 現在行っている活動を行う目的や動機は何ですか。

No.	回答内容	割合
1	生きがい	19.6%
2	時間の有効活用	14.5%
3	健康・体力づくり	14.2%
4	生活の充実	11.6%
5	人生を豊かに	9.8%
6	仕事に役立てる	7.0%
7	その他	23.3%
8	計	100.0%



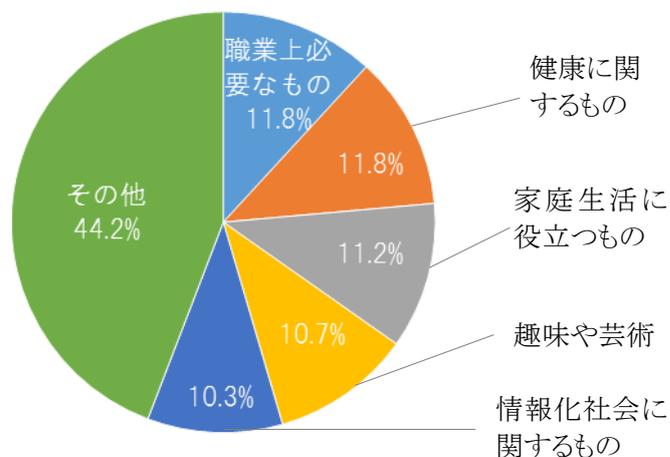
問5-4 現在行っている活動をしやすい時間帯はいつですか。

No.	回答内容	割合
1	平日の夜間	22.1%
2	平日の午後	20.7%
3	平日の午前	19.3%
4	その他	37.9%
5	計	100.0%



問6 あなたが、今後行ってみたいものは、どのようなことですか。

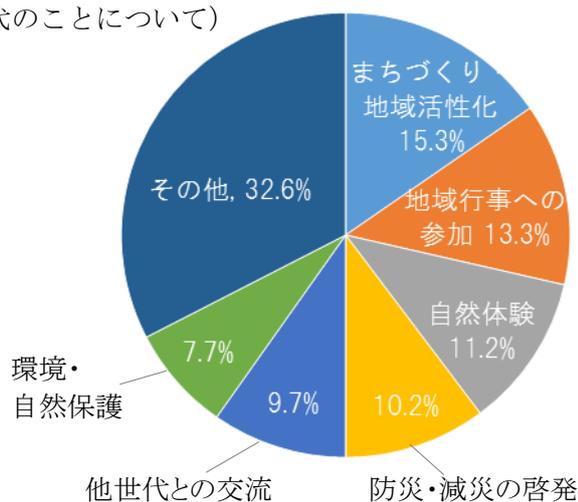
No.	回答内容	割合
1	職業上必要なもの	11.8%
2	健康に関するもの	11.8%
3	家庭生活に役立つもの	11.2%
4	趣味や芸術	10.7%
5	情報化社会に関するもの	10.3%
6	その他	44.2%
7	計	100.0%



問7 あなたは、青少年・成人・高齢者を対象とした生涯学習として、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(あなたご自身の世代のことについて)

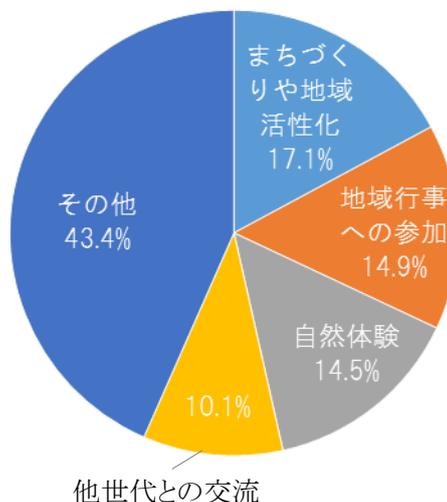
【全世代】の意見

No.	回答内容	割合
1	まちづくり・地域活性化	15.3%
2	地域行事への参加	13.3%
3	自然体験	11.2%
4	防災・減災の啓発	10.2%
5	他世代との交流	9.7%
6	環境・自然保護	7.7%
7	その他	32.6%
8	計	100.0%



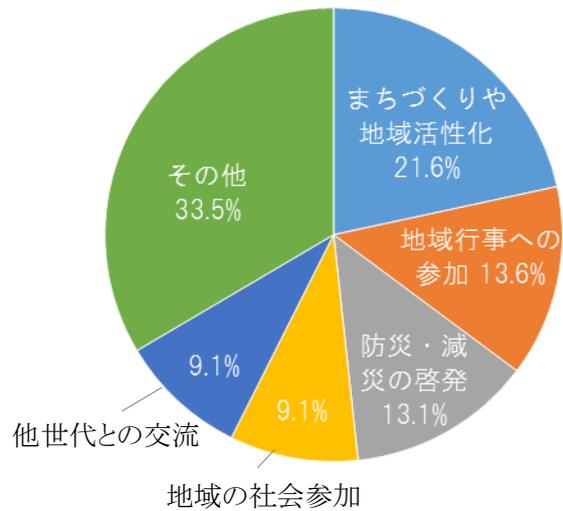
世代ごと【10代～30代】の意見

No.	回答内容	割合
1	まちづくりや地域活性化	17.1%
2	地域行事への参加	14.9%
3	自然体験	14.5%
4	他世代との交流	10.1%
5	その他	43.4%
6	計	100.0%



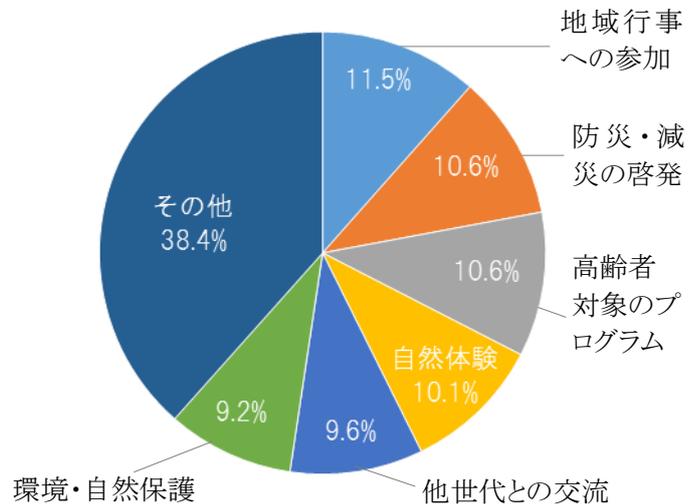
世代ごと【40代～50代】の意見

No.	回答内容	割合
1	まちづくりや地域活性化	21.6%
2	地域行事への参加	13.6%
3	防災・減災の啓発	13.1%
4	地域の社会参加	9.1%
5	他世代との交流	9.1%
6	その他	33.5%
7	計	100.0%



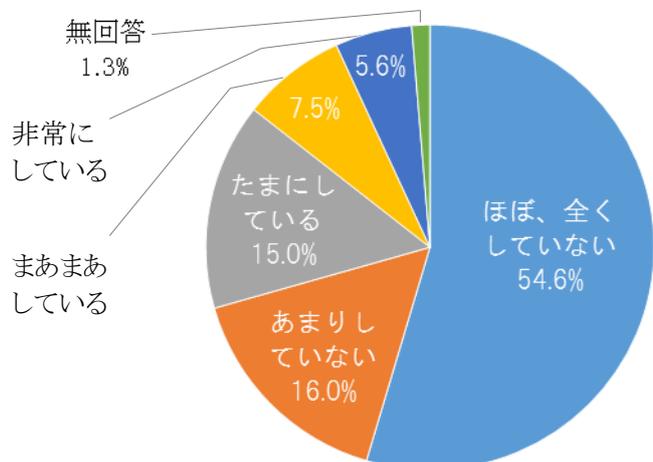
世代ごと【60代～70代】の意見

No.	回答内容	割合
1	地域行事への参加	11.5%
2	防災・減災の啓発	10.6%
3	高齢者対象のプログラム	10.6%
4	自然体験	10.1%
5	他世代との交流	9.6%
6	環境・自然保護	9.2%
7	その他	38.4%
8	計	100.0%



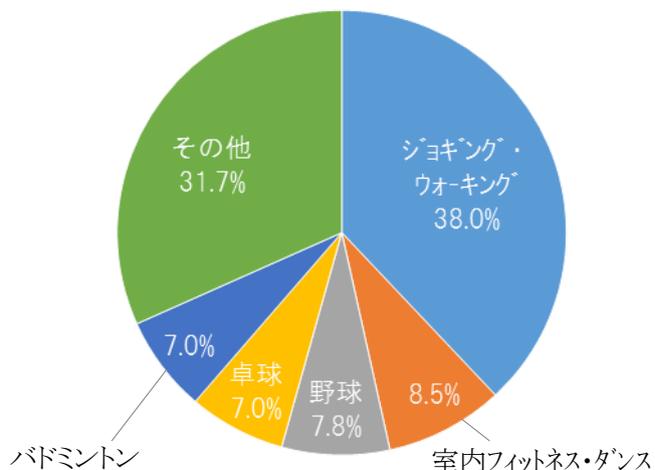
問8① あなたは、過去1年間に何らかの「スポーツ・軽スポーツ」をされましたか。

No.	回答内容	割合
1	ほぼ、全くしていない	54.6%
2	あまりしていない	16.0%
3	たまにしている	15.0%
4	まあまあしている	7.5%
5	非常にしている	5.6%
6	無回答	1.3%
7	計	100.0%



問8②-1 現在している「スポーツ」について、お答えください。

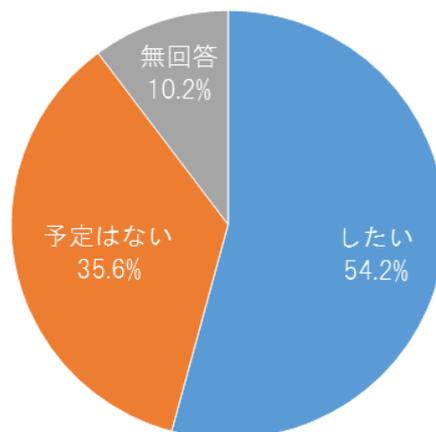
No.	回答内容	割合
1	ジョギング・ウォーキング	38.0%
2	室内フィットネス・ダンス	8.5%
3	野球	7.8%
4	卓球	7.0%
5	バドミントン	7.0%
6	その他	31.7%
7	計	100.0%



問8②-2 今後したいと思っている「スポーツ」について、お答えください。

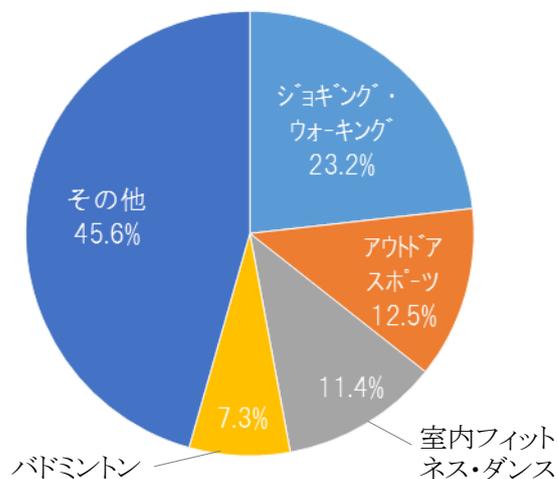
【今後スポーツをしたいかの有無】

No.	回答内容	割合
1	したい	54.2%
2	予定はない	35.6%
3	無回答	10.2%
4	合計	100.0%



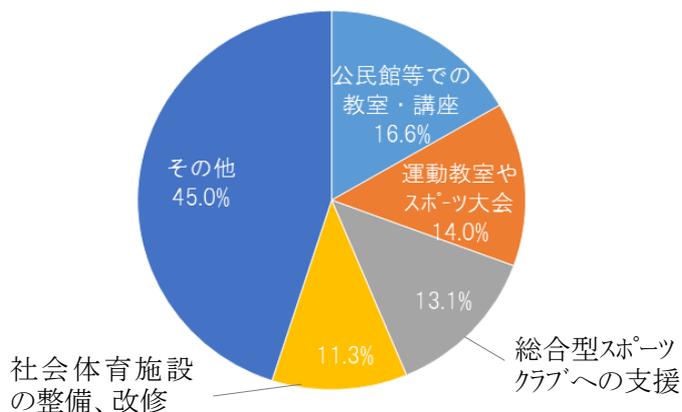
【やってみたいスポーツの内訳】

No.	回答内容	割合
1	ジョギング・ウォーキング	23.2%
2	アウトドアスポーツ	12.5%
3	室内フィットネス・ダンス	11.4%
4	バドミントン	7.3%
5	その他	45.6%
6	計	100.0%



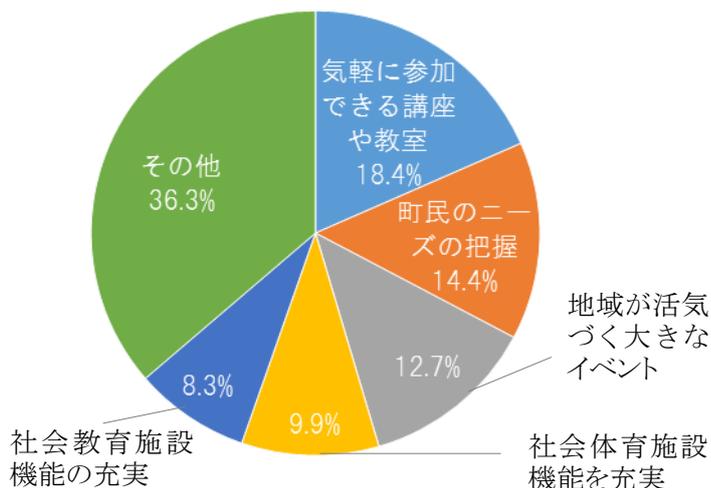
問9 健康づくり・スポーツを充実させるためにどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

No.	回答内容	割合
1	公民館等での教室・講座	16.6%
2	運動教室やスポーツ大会	14.0%
3	総合型スポーツクラブへの支援	13.1%
4	社会体育施設の整備、改修	11.3%
5	その他	45.0%
6	計	100.0%



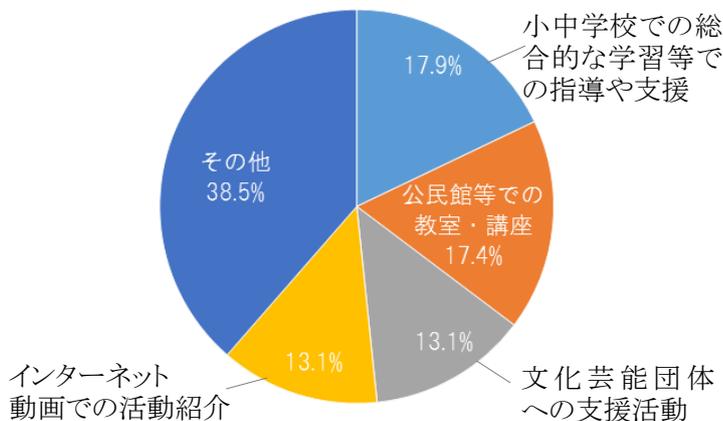
問10 今後、町民の「生涯学習」をもっと盛んにしていくために、深浦町ではどのようなことを行うべきだと思いますか。

No.	回答内容	割合
1	気軽に参加できる講座や教室	18.4%
2	町民のニーズの把握	14.4%
3	地域が活気づく大きなイベント	12.7%
4	社会体育施設機能を充実	9.9%
5	社会教育施設機能の充実	8.3%
6	その他	36.3%
7	計	100.0%



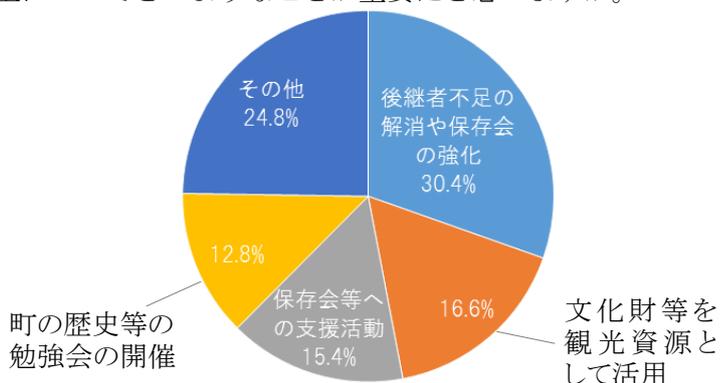
問11 深浦町の文化・芸術活動を充実させるために必要なことはどのようなものだと思いますか。

No.	回答内容	割合
1	小中学校での総合的な学習等の支援	17.9%
2	公民館等での教室・講座	17.4%
3	文化芸能団体への支援活動	13.1%
4	インターネット動画での活動紹介	13.1%
5	その他	38.5%
6	計	100.0%



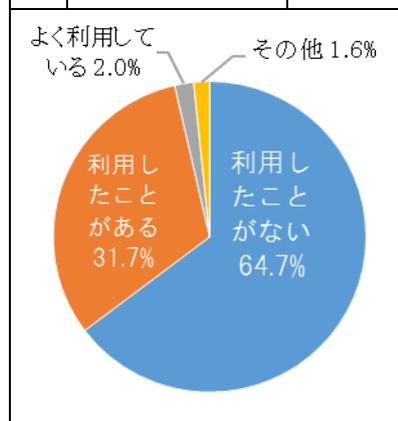
問 12 深浦町の文化財や伝統芸能の継承・保全についてどのようなことが重要だと思いますか。

No.	回答内容	割合
1	後継者不足の解消や保存会の強化	30.4%
2	文化財、伝統芸能の観光資源化	16.6%
3	保存会等への支援活動	15.4%
4	町の歴史・文化財の勉強会の開催	12.8%
5	その他	24.8%
6	計	100.0%

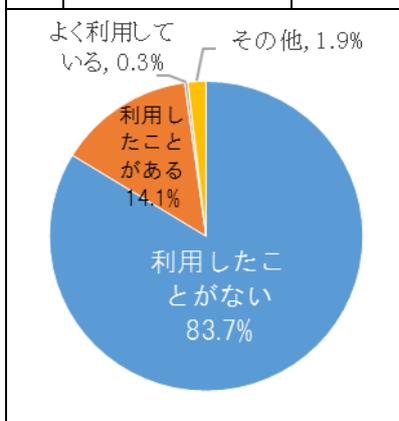


問 13-1～13-3 あなたは、深浦町の公民館を利用したことがありますか

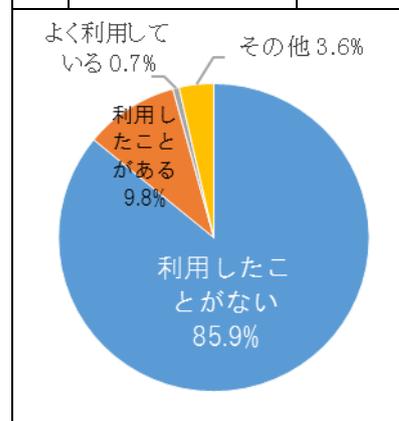
No.	深浦町公民館	割合
1	利用したことがない	64.7%
2	利用したことがある	31.7%
3	よく利用している	2.0%
4	その他	1.6%
5	計	100.0%



No.	岩崎分館	割合
1	利用したことがない	83.7%
2	利用したことがある	14.1%
3	よく利用している	0.3%
4	その他	1.9%
5	計	100.0%

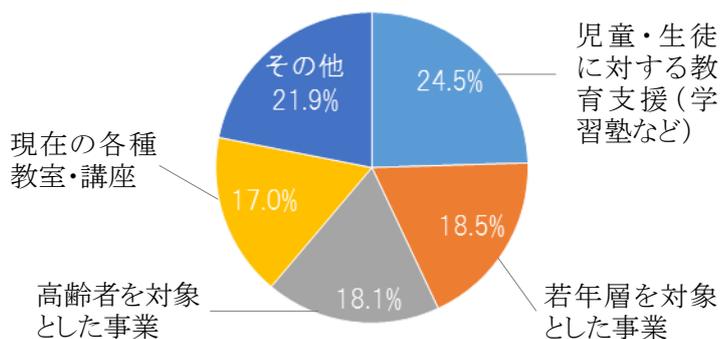


No.	大戸瀬分館	割合
1	利用したことがない	85.9%
2	利用したことがある	9.8%
3	よく利用している	0.7%
4	その他	3.6%
5	計	100.0%



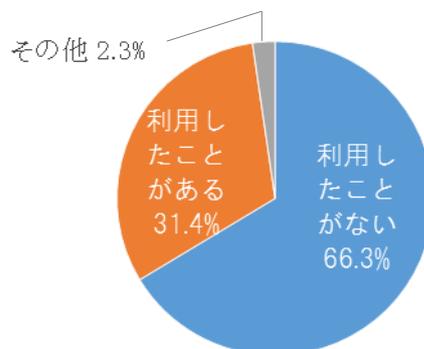
問 13-4 あなたは、公民館にどのような事業を望んでいますか。

No.	回答内容	割合
1	学習塾など児童・生徒に対する教育支援	24.5%
2	若年層を対象とした事業	18.5%
3	高齢者を対象とした事業	18.1%
4	現在の各種教室・講座	17.0%
5	その他	21.9%
6	計	100.0%



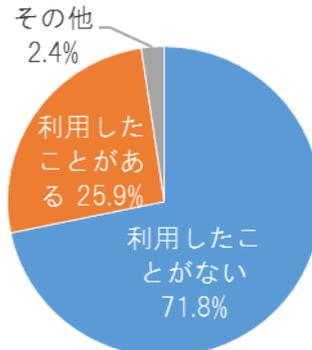
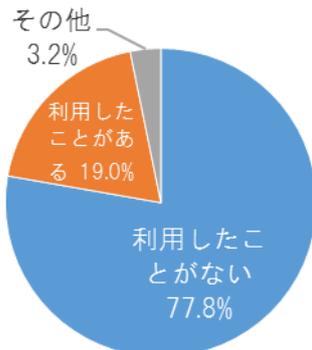
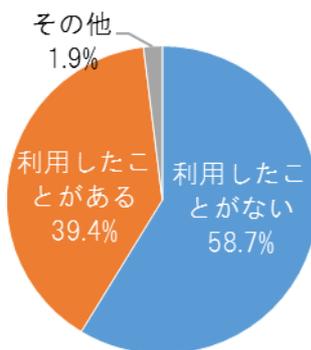
問 14-1 深浦町歴史民俗資料館・美術館を利用したことがありますか。

No.	回答内容	割合
1	利用したことがない	66.3%
2	利用したことがある	31.4%
3	その他	2.3%
4	計	100.0%



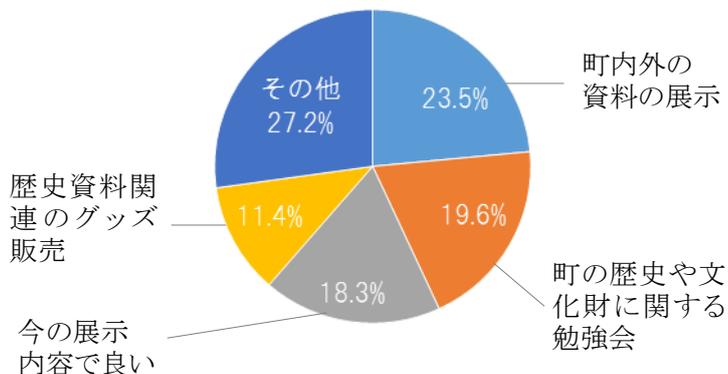
【地区毎の歴史民俗資料館・美術館利用状況】

No.	深浦町地区	割合	No.	岩崎地区	割合	No.	大戸瀬地区	割合
1	利用したことがない	58.7%	1	利用したことがない	77.8%	1	利用したことがない	71.8%
2	利用したことがある	39.4%	2	利用したことがある	19.0%	2	利用したことがある	25.9%
3	その他	1.9%	3	その他	3.2%	3	その他	2.4%
4	計	100.0%	4	計	100.0%	4	計	100.0%



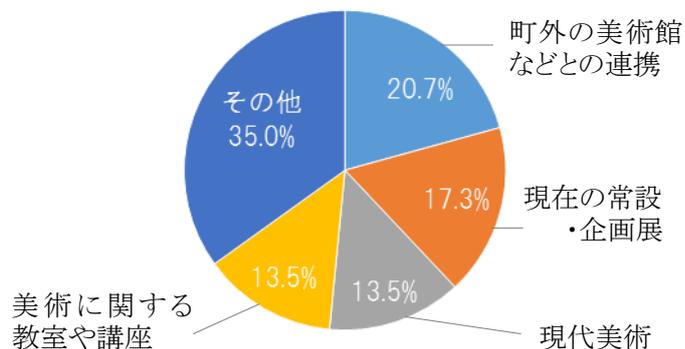
問 14-2 歴史民俗資料館に今後どのような事業を行って欲しいですか。

No.	回答内容	割合
1	町内外の資料の展示	23.5%
2	町の歴史や文化財に関する勉強会	19.6%
3	今の展示内容で良い	18.3%
4	歴史資料関連のグッズ販売	11.4%
5	その他	27.2%
6	計	100.0%



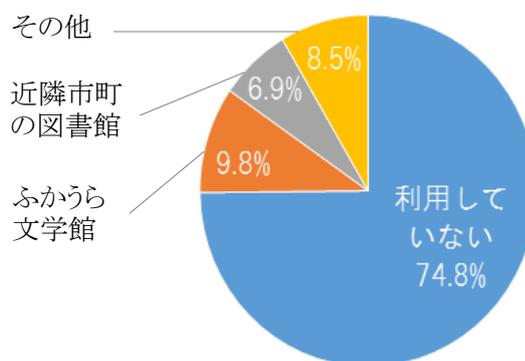
問 14-3 美術館に今後どのような展示や事業を行って欲しいですか。

No.	回答内容	割合
1	町外の美術館などとの連携	20.7%
2	現在の常設・企画展	17.3%
3	現代美術	13.5%
4	美術に関する教室や講座	13.5%
5	その他	35.0%
6	計	100.0%



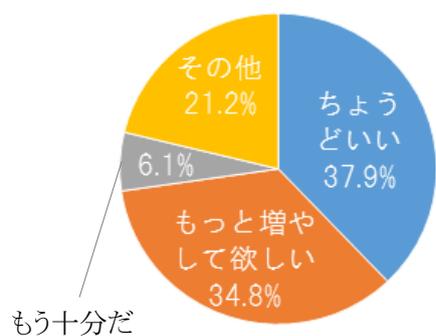
問 15-1 あなたは図書館（図書室なども含む）を利用する際、主にどの施設を利用していますか。

No.	回答内容	割合
1	利用していない	74.8%
2	ふかうら文学館	9.8%
3	近隣市町の図書館	6.9%
4	その他	8.5%
5	計	100.0%

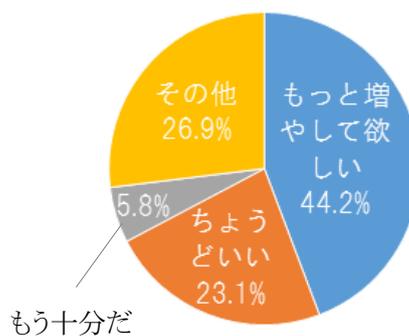


問 15-2、15-3 町の図書室の児童図書の蔵書についてどう思いますか。

No.	文学館	割合
1	ちょうどいい	37.9%
2	もっと増やして欲しい	34.8%
3	もう十分だ	6.1%
4	その他	21.2%
5	計	100.0%

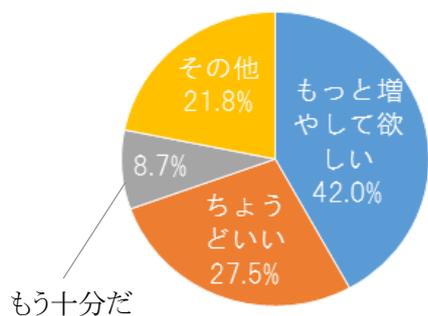


No.	各分館	割合
1	もっと増やして欲しい	44.2%
2	ちょうどいい	23.1%
3	もう十分だ	5.8%
4	その他	26.9%
5	計	100.0%

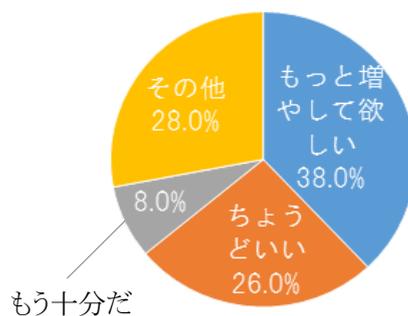


問 15-4、15-5 町の図書室の一般図書の蔵書について

No.	文学館	割合
1	もっと増やして欲しい	42.0%
2	ちょうどいい	27.5%
3	もう十分だ	8.7%
4	その他	21.8%
5	計	100.0%

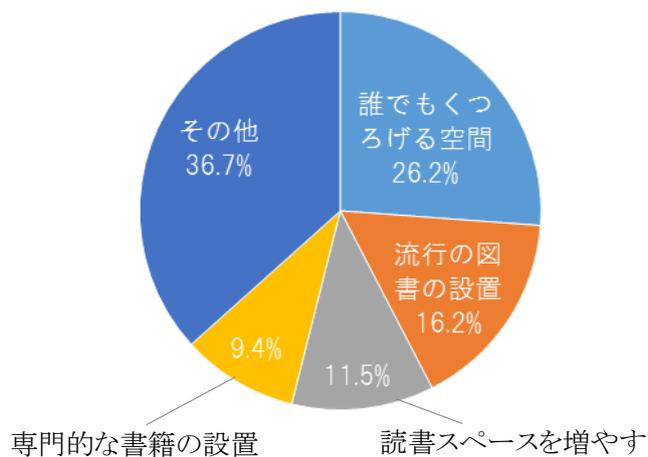


No.	各分館	割合
1	もっと増やして欲しい	38.0%
2	ちょうどいい	26.0%
3	もう十分だ	8.0%
4	その他	28.0%
5	計	100.0%



問 15-6 どのような図書室であれば頻繁に利用しようと思いますか。

No.	回答内容	割合
1	誰でもくつろげる空間	26.2%
2	流行の図書の設置	16.2%
3	読書スペースを増やす	11.5%
4	専門的な書籍の設置	9.4%
5	その他	36.7%
6	計	100.0%



第4次深浦町中期社会教育計画

(令和5年度～令和9年度)

令和5年3月発行

発行・編集 / 深浦町教育委員会 教育課

〒038-2324

青森県西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢 84-2

TEL 0173-74-4419 / FAX 0173-74-3050

E-mail kyouiku@town.fukaura.lg.jp